

旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
2023年8月13日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 祷		一 同
讃 美※	聖 歌 478 「罪 と が を 赦 さ れ 」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	聖 歌 511 「わ が 友、主 イ エ ス は 」	一 同
教会学校	絵 本 「イ サ ク の 息 子 た ち 」	牧 師
讃 美	聖 歌 475 「わ が 生 涯 は 」	一 同
聖書朗読	使徒行伝5:34-42	
奨 励	使徒行伝の福音(第18回)	牧 師
主 題	「神から出た信仰」	
讃 美	聖 歌 181 「神より生まれし者よ」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	聖 歌 378 「栄 え あ れ や 」	一 同
祝 祷※		牧 師
来週の箇所	ラック宣教師のメッセージ	

※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意しておりますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



《今週の歩み》
8/13(日) 聖日礼拝
/14(月)
/15(火)
/16(水)
/17(木) 10:00 聖研
/18(金)
/19(土) 13-16 子供おブソハウス



- 《祈りの課題》
- ① 家族の救いのために
 - ② 礼拝に来れなかった人々のために
 - ③ 教会学校の子供たちが救われますように

静思の時の為に

ヘブル書 Devotion 第11回
「信仰によって生きる」
(ヘブル11:1-3)

本章には旧約聖書の人物がたくさん登場し、さながら信仰者列伝のようです。そして、彼らについて23回繰り返されるのが「信仰によって」との言葉であり、全40節からなる本章で「信仰」が28回も使われていることから、「信仰によって生きるとはどのように生きることなのか？」が本章の主題だということが分かります。

それでは、**信仰とは何でしょうか？**第1節に「**信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです**」とあります。これはとすると、「**信仰とは、私が望んでいることを神様は必ず叶えて下さると確信すること**」と読みがちです。しかし、ここに使われている二つの言葉「**望む**」「**見る**」は意外なことに、文法的にはどちらも受動態が使われているのです。したがって、この文章の主語は「私」ではなく、「神」であることになり、直訳すれば「**信仰とは、(神によって)望まされていることを保証し、(神によって)見させられていないものを確信すること**」となります。

確かに、登場する旧約の人物たちが自分勝手に願望した事を神様が叶えて下さったのではなく、彼らは神から与えられた約束をまだ見ていないのに、主なる神は必ず成就して下さると信じた人々でした。たとえばアブラハムは年老い、サラも不妊の女であったのに主なる神が子を与えるという約束を信じて義とされ、イサクが生まれました。ヘブル語の「信仰(エムナ)」という言葉の語源は「アーメン」であると言われています。これは**神様の約束をアーメンと言って信じる事が信仰である**ことを示しています。「信仰とは神の真実である」(カール・バルト)との言葉は、信仰とは人間の主観的願望や信念ではなく、仰った事を必ず成し遂げる神の真実を意味しているのです。ヘブル11:1の意訳は「**アーメン！と言う人の希望に、わたしは確かな土台を与える。それは今、あなたの目には見えなくとも大丈夫。わたしが保証する**」となります。

開拓伝道3年目、年末のディナーで「**正月の元日にあなたは会見の天幕なる幕屋を建てなければならない**」(出エジプト40:1)という御言が説教箇所として与えられる思いがしました。「幕屋」とは人としての「教会」を指すのか、それとも「会堂」を意味するのかが、この御言からだけでは分からないので、私はどちらも取れる説教をしました。翌年の夏、大家さんから「母屋を増築したいので、あなたたちの都合の良い時に借家を明け渡してほしい」と言われたので、私たちは「動き出した!」と喜びました。家を探して秋になり、ミッション財団と銀行からの融資で、12月24日に中古住宅の売買契約を締結することが出来ました。神様からのクリスマスプレゼントです。そして本当に翌年の正月に新会堂に引越すことができたのです。まず御言が来て、後に確証が与えられ、神様は仰ったことを確かに成し遂げられるということを再び体験した出来事でした。